

## ホタルの郷づくり事業

### 取組に至る背景・事業の目的

- 白馬乗鞍ホタルの郷は、6月上旬から9月下旬までの長い期間中成虫が飛び交う、全国でも稀なホタルの鑑賞地（生息地）であり、3,000人を超える鑑賞客が訪れ、グリーンシーズンの誘客の柱となってきた。
- 温暖化や異常気象が続く中、毎年安定した数のホタルが鑑賞できるようにするためには、水路及び周辺の環境整備や幼虫、カワニナの人工的な飼育が不可欠となっている。
- ホタルの会では、ホタルの生育環境保全に関する啓蒙を行いながら、より一層の観光誘客を図り、地域活性化につなげることを目的に活動している。

### 事業内容

- 本事業では、ホタルの会メンバーのみならず、地域住民及び会の活動に賛同いただける方も含め、以下の取り組みを協働で実施した。
  - ・安定した数のホタルの成虫を孵化させるため、人口産卵により幼虫を飼育。
  - ・ホタル幼虫や餌となるカワニナが生育しやすい環境づくりのため、地元小学生らと協働した水路整備や維持管理。
  - ・ホタルの郷ガイドツアーやホタル祭りを実施。
  - ・ホームページ開設、ポスター・チラシによる広告宣伝。



【小学校水路ホタル幼虫の放流】

### 事業効果

- ホタル、カワニナの飼育は、2年目となり順調に進み、現水路の整備も今年度で終了した。水路内が落ち着いた状態になり、珪藻類が繁殖し始めれば、ホタルやカワニナが繁殖しやすい環境となる。小学生の生徒さんもホタルに興味を持って、進んで作業に参加していただいた。
- ガイドツアーも2年目となり、リピーターの方々が来るなど、ホタル祭りにおける鑑賞客の増加が見受けられた。
- 8月の悪天候にもかかわらず、鑑賞客は約5%増加した。ホームページの開設やポスター・チラシによる宣伝効果が見られた。
- 看板や安全柵、誘導灯などでの安全対策が図られた。それ以上に、会員の皆さんや地元の有志の方々が、毎晩、車の誘導、鑑賞客の案内をしてくださったことが、一番の安全対策、おもてなしにつながったと考えている。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 夏の低温、悪天候により、8月、特にお盆前後は、ホタル観賞客も激減した。しかしながら、トータルでは若干昨年よりも多くなった。「ホタルの郷・白馬乗鞍」が定着してきていると考えられる。
- 来年度は、いよいよ生態系保全施設として「ホタル公園」の建設も始まり、水路延長も現在の3倍近くとなる。より多くのお客様に楽しんでいただけるよう、今後も本事業を継承し、多くの方々のご支援をいただいで、地域の活性化に努めていきたい。

### 【選定のポイント】

地域住民や小学生との協働によるホタル生息環境の保全・整備や、ホタルガイドツアーの実施などの取組が「ホタルの郷」としての知名度向上・観光誘客につながった。

事業名	白馬乗鞍ホタルの会（小谷村）	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	090-4607-5096	事業費	1,086,423円
メールアドレス	tugapara@janis.or.jp	支援金額	782,000円